

1. 研究主題

教科の本質的なおもしろさを感じさせる授業づくり (2年計画の1年次)

2. 主題設定にあたって

昨年度まで3年間、「教科の本質的なおもしろさを感じさせる指導法の研究」として、生徒が「教科を好きになる」授業づくりを実践してきた。教師はファシリテーターの役割を担い、学習者である生徒が主体となった、生徒同士の学びの場面を大切にする授業を実践してきた。成果として学習者中心の授業づくりが生徒、教師の間で定着しつつある。

課題としては、より探究的・追求的な、あるいは難易度の高い課題の提示や、表面的でない、より深い話し合い活動、「振り返り」から次の授業へ生徒が主体的につなぐ展開、カリキュラムマネジメントの観点からの他教科との関連、などが挙げられた(具体例は令和2年度末の、「令和3年度 学校研究に向けて」参照)。

また、今年度は学習指導要領改訂の完全実施となり、「主体的・対話的で深い学び」を推し進めながら単元の指導計画・評価計画を見直さなければならない。そこで今年度は、新指導計画・評価計画に基づいた授業を進めながら、昨年度までの授業づくりの実践を生かし、課題を改善しながらよりよい授業づくりを模索していく。

3. 今年度の研究について

(1) 基本的な方向性: 「教科の本質的なおもしろさを感じさせる授業」を目指して、教科のわくを超えた小グループによる授業研究を行う。グループは異年齢、異教科の小グループを設定し、同じ教科の教師からは得られない見方・考え方を得て(教科横断的な視点)、複眼思考で授業の改善を目指す。

教師個人が主題にせまるための具体的なサブテーマは、個人で設定する。その成果と課題から、次年度(令和4年度)の研究主題を設定し、さらに深めていく。

(2) めざす生徒像: 学校経営計画に掲げられた「目指す学校の姿・・・ひとつになり、ひとりになる学校」に象徴される。皆で寄り添い、話し合い、深め合い(そこではひとつになり)ながら、やがて自己決定し結果に責任を持って自立していく(ひとりになる)生徒の育成を目指す。

(3) めざす授業像: 先生が一方向的に教える授業(従来の授業)



生徒が主役の授業、生徒と先生が一緒につくる授業

(4) 授業研究会の持ち方

- ・庄内教育事務所の「学力向上トライ訪問」(年3回)
- ・山形大学の森田先生を招聘しての校内研修会(年3回)

計6回のこの機会を、全体研修会①、②と、4つの小グループ各1回ずつの授業研修会(計4回)に割り振って研究を進めていく。

(5) 研究実践グループと研究日程

○はグループの班長、()は教科と所属学年を示す。

1 班	2 班	3 班	4 班
○池田陽樹（英）（2年） 今野大輔（社）（3） 後藤早苗（理）（2） 阿部朋子（隼）（1）	○平岡拓也（数）（1年） 渡会明子（英）（3） 細矢 聡（理）（3） 阿曾 晃（国）（2） 齋藤美恵子（美）（1）	○荘司明信（国）（2年） 佐々木秀（嫁）（4） 荘司光洋（社）（3） 水戸祥子（理）（3） 今野 尚（音）（1）	○仲川譲治（数）（2年） 荒木竜也（隼）（3） 阿彦寿美（国）（3） 碓谷智恵（英）（1）

- ① 6 / 10（木）全体研修会①（山大森田氏） 提案授業：3班：荘司明信（国）
- ② 6 / 14（月）授業クリニック①（事務所トライ訪問①） 授業者：2班：渡会明子（英）
- ③ 10 / 21（木）授業クリニック②（山大森田氏） 授業者：1班：池田陽樹（英）
- ④ 11 / 12（金）全体研修会②（事務所トライ訪問②） 各班より一人ずつの授業者
1班：今野大輔（社） 2班：平岡拓也（数） 3班：水戸祥子（理） 4班：碓谷智恵（英）
- ⑤ 1 / 26（水）授業クリニック③（事務所トライ訪問③） 授業者：4班：荒木竜也（保体）
- ⑥ 2 / 8（火）授業クリニック④（山大森田氏） 授業者：3班：佐々木秀（技家）

※1. 授業者以外の先生方は、年に一度授業公開をする。通常の日程の中で日時と時間、学級を決めて授業をし、同じ班の方や時間の空いてる方から参観してもらい、簡単に事後研修会を行う。

※2. 上記校内研修会のほかに、以下の研究授業も本校で予定されています。

10 / 1（金）中高教員相互派遣研修会 授業者：池田陽樹（英）

11 / 5（金）遊佐町学力橋上調査研究委員会研修会 授業者：平岡拓也（数）

4. 研究の視点（重点）・・・昨年度までの視点から、改訂し再掲

（1）生徒と教師の意識の共有化

授業は、学習者である生徒が主体となり教師が協力して一緒に作っていくものである。その意識を、機会をとらえ生徒にも浸透させていく。

（2）魅力ある授業づくり

- ・「魅力ある課題」「挑戦する課題」を設定し、教科の本質的なおもしろさを感じ、深い学びにつながるような授業づくりを工夫する。
- ・関心の高まりに応じて新たな課題が生じ、「探究的な活動」ができるような単元構成を工夫する。
- ・生徒がお互いに話したくなるような課題や場面を設定し、自然につぶやいたりのぞき込んだりしながら、それぞれが意欲的に学習に向かえる授業にする。
- ・さまざまな学習形態を工夫し、どんな活動（どんな目的）のときに、どのような形態が有効かを情報交換していく。

（3）学習者主体の授業づくり

- ・「協働的な学習」の中で、学習（学習過程）が生徒たちの発言や関わり合いを中心に展開されるように工夫する。
- ・生徒が、より良い聞き手・より良い話し手としての能力が向上するように、また場面と目的に即した発表ができるように助言していく。
- ・授業に「振り返り」を入れ、自分の学びを意識したり、疑問を発見したりする場面を作る。生徒の振り返りから、学習者の達成度や関心、満足度、授業そのものへの評価を見取り、柔軟に対応する。